

2021 年度からの中期活動計画（2021 年度～2023 年度）

V70 「All for Society ～社会を支えるパルプ産業の更なる進化のために～」

分野名	テーマ	実施項目	担当組織	活動目標 (目指す姿)	2022 年度 活動計画	2022 年度 活動成果	2023 年度 活動計画	SDGs の該当項
1. 次世代へつなげる 新しい働き方への 転換 <背景、課題、リスク> 労働力・労働人口の減少 ・働き方改革 (ものづくり、業務) ・人財育成 ・定年延長 健康寿命の 延伸 ・高齢者の就労促進 ・女性の就労環境の改善	◇生産・加工・設計・評価 技術の人材力の強化	①中堅社員の育成（技術委員会 と連携し技術・能力向上の研 修メニュー作り ②女性活躍（パルプ女史 PJ で活 動） ③シニア活躍（人財バンクの体 制づくりを検討し再活躍でき る場の創設） ④次世代育成（経営者層は清流 会で活動。中堅社員が幹部職 になるための科目づくり） ⑤研修事業体系化（研修科目を メニュー化し、選択しやすい 体制づくり）	人財育成委員会	①会員企業の技術力向上を底上げ するため、必要なスキルやレベル が把握できるような年間の研修 メニューが計画的に立てられて いる。 ②会員企業が年間の受講計画を立て やすいよう、ニーズがある科目 の過不足がない研修メニューが できている。	(継続) ①パルプ生産・周辺技術の知識習得 を目的とした“パルプ塾”の企画・ 主催 ②会員企業内外の経営者への人財 活用の課題聞き取りを実施し、制 度づくりや交流会を検討 ③外部で実施中の研修会について 会員企業への紹介活動を実施 (強化) ④会員企業のシニア人財の再活躍 プログラムを実施 (新規) ⑤研修ニーズをベースに技術委員 会・人財育成委員会及び外部企 業・団体の活用への具体化を推進 ⑥他組織と情報共有のうえ、研修メ ニュー体系化に向けた検討	①“パルプ塾”の企画・主催。継続 科目（生産管理、鋳造）を計画通 り実施し、「鍛造、ガスケット、蒸 気」を新規に開催 ②社内コミュニケーション力強化 セミナー“自分史づくりの活用” の企画・主催 ③会員企業内外の経営者へ人財活 躍（主にシニア人財）の課題を聞 き取りし、シニア人財の再活躍 プログラムに随時反映 ④「ニーズがあるが独自企画しない 科目」は、外部の既設研修を活用 するように会員企業に紹介を実 施。 ⑤工業会研修メニューの体系化・ス ケジュール化の準備 ・モノづくりの基本分野（「Q・C・ D」、「個別技術」、「基準・法令関 連」）を「基礎編、応用編」の2段 構えとした、春、夏、冬の3時期 開催への準備活動	(継続) ①パルプ生産・周辺技術の知識習 得を目的とした“パルプ塾”の企 画・主催 1) 「品質管理」分野の準備推進、実 施。「個別技術」、「基準・法令関 連」分野での科目別準備と開催 2) 春、夏、冬の3時期開催への準 備活動の定着化 3) リアル・ハイブリッド開催での 交流機会づくりの工夫（トライ アル） 4) 「ニーズがあるが独自企画しない 科目」は、外部の既設研修を活用 するように会員企業に紹介を実 施。 5) 他組織と情報共有のうえ、研修 メニューの体系化 ②シニア人財の再活躍に向けた取 り組み ・社内コミュニケーション強化に つながる「自分史」の活用・支援。 第1回参加者交流会、経営者フ ィードバックからの次回への反 映 (新規) ①シニア人財の再活躍に向けた取 り組み ・プラチナ人財バンクのフレーム 案を作成 ②委員増強、多様性拡大	3. すべての人に健 康と福祉を
	◇安全、安心で誰もが働 きやすい職場づくり ・災害・事故の無い、安 全で健康な職場づく り	①労働災害実態調査の継続による 実態の分析と改善成果の分 析、及び、安全に関する PR ②パルプ安心安全ネットワーク 活動の実施、参加企業の拡大 ③会員による安全大会/事例報告 会の開催 ④労働安全標語コンテストの開 催 ⑤会員における労働安全衛生マ ネジメントシステム導入の推 進（意識調査の実施など） ⑥健康経営推進へのアプローチ	安全衛生委員会	①他業種よりも安全な業界を実現 できている。 ②業界の実情や取組内容を対外向 けに PR できている。 ③安全衛生委員会が、会員の労働 安全衛生向上のための情報提供な どのサポートを行っている。 ④パルプ安心安全ネットワークが 多くの参加者にとって有益な活 動となり、自発的な活動が定期的 に継続開催されている。 ⑤会員の3/4以上がパルプ安心安全 ネットワークに加入し、積極的に 参加している。 ⑥健康経営ネットワークが実現で きている。	①労働災害実態調査報告の発行と 次回調査の実施 ②パルプ安心安全ネットワーク活 動の拡充（21 年度末時点で 49 社 55 名が登録） ③健康経営推進に向けた取り組み (セミナー開催など) ④外部に向けた当委員会及びネッ トワーク活動の PR	①22 年 8 月に第 3 回労働災害実態 調査報告を発行。回答社数は 78 社。休業災害件数、被災者数とも に前年より増。第 4 回調査を 22 年 3 月に実施。 ②パルプ安心安全ネットワークは 年 4 回開催。休業災害が増えた要 因やその対策等について意見交 換を行った。加入者数は 22 年度 末時点で 50 社 58 名。 ③22 年 10 月に「健康経営推進セミ ナー」を開催。15 社 26 名が受講 ④22 年 11 月に「化学物質管理セミ ナー」を開催。36 社 70 名が受講	①労働災害実態調査報告の発行と 次回調査の実施 ②パルプ安心安全ネットワークメ ンバー増と活動の活性化、対面 での交流会開催 ③健康経営推進の継続 ④当委員会及びネットワーク活動 の対外向け PR	8. 働きがいも経済 成長も
	◇多様な人材が活躍する 職場の実現	①NW 活動に伴う企業間交流に よる女性人財の育成（活躍機 会の創出） ②HP を活用した会員企業への 啓発活動 （講習会、工場見学等の活動報 告による身近な好事例の情報 発信。活動の見える化の推進） ③パルプ女史 NW ロゴマークの 活用女性活躍推進のシンボル	パルプ女史 NW	①会員企業の女性社員が参加しや すいイベントの企画立案および 提供を行い、NW メンバーのイキ イキ度や成長度が向上できてい る。 ②NW 活動を業界内外へ広く周知 することにより「女性が働きやす い業界」の PR ができている。 ③NW メンバーが情報の“ツナギ役” として、セミナー等で得た女性活	①男性上司向けセミナーの計画お よび実施 ②経営者インタビューの計画およ び実施 ③会員企業訪問（意見交換会・見学 会）の計画および実施 ④上記実施内容の web コンテンツ 掲載による有益情報の共有	①22 年 9 月：「女性活躍推進セミナ ー（男性上司と NW メンバーの意 見交換）」を実施し、目に見えにく い多様性の重要さを共有。 ②23 年 2 月：女性活躍推進に関す る好事例やモチベーション維持 のコツなどについて同「経営者 インタビュー」を実施し、NW メ ンバーの知見を広げた。（会員企 業女性社長宛インタビュー）	①会員企業訪問（見学会・訪問企 業の女性社員との意見交換会）の 計画および実施 ②LGBTQ セミナーの計画および 実施 ③業界新聞への NW 活動の記事掲 載、および各方面でのパルプ女 史 NW ロゴマークの使用や web サイトコンテンツ改定による女	5. ジェンダー平等 を実現しよう

分野名	テーマ	実施項目	担当組織	活動目標 (目指す姿)	2022 年度 活動計画	2022 年度 活動成果	2023 年度 活動計画	SDGs の該当項
		マークとして、普及・定着の推進		躍推進に関する知識の展開、意見交換が実施できている。		③上記①、②について web コンテンツ掲載による情報発信、共有 ※会員企業会社訪問はコロナの影響により次年度に延期。	性活躍推進活動の見える化・活性化の促進	
	◇次世代経営者人財育成、事業承継	①若手経営者のネットワーク継続・拡大 ②先輩経営者との交流、勉強会	清流会	若手経営者ネットワークの深化と更なる拡大を図り、若手経営者の人脈づくりに寄与できている。(毎年度ごとにメンバー数増)	①メンバー企業の見学 ②先輩経営者との座談会	①メンバー企業の工場見学会を実施し人脈づくり及び知見を深めることに寄与した。また、東海支部所属の若手経営者との交流会を実施した。	①メンバー企業の見学 ②先輩経営者との座談会 ③若手経営者ネットワークの更なる拡大	
	◇技術、技能の向上と企業間の技術情報の共有化	①特定技術に対する技能認定制度づくり (例：鋳造技術など)を導入。 ②関連省庁・団体マップを活用した有識者との繋がりを強化	技術委員会	①技能評価への権威付けが図られ、業界の地位がさらに向上している。 ②企業ブランドが向上し、バルブ産業の振興に貢献できている。 ③従業員のモチベーションアップにつながり、人財定着できている。	①“バルブ初級研修”を会員向けおよび公開講座として企画・実施 ②外部で実施中の技能認定制度・表彰制度を会員企業へ紹介 ③バルブ業界で活用できる標準的なスキルマップの内容を確認し、研修メニュー体系化に向け検討	①バルブ製品技術の基礎知識習得を目的とした“バルブ初級研修”を会員向けおよび会員外への公開講座として企画・主催 1) 会員向け [22 年 7 月 13 日～15 日、受講者 32 社 81 名／前年度 25 社 58 名] 2) 公開講座(基礎編) [22 年 11 月 9 日～10 日、受講者 24 社 54 名／前年度 14 社 23 名] ②会員企業及び外部の技能認定制度・表彰制度の現状を調査し、会員企業へ紹介 ③バルブ業界で活用できる標準的なスキルマップの内容検討	①バルブ製品技術の基礎知識習得を目的とした“バルブ初級研修”を会員向けおよび会員外への公開講座として企画・実施 ②外部で実施中の技能認定制度・表彰制度について会員企業へ紹介 ③バルブ業界で活用できる標準的なスキルマップ完成。会員企業への活用提案	4.質の高い教育をみんなに

分野名	テーマ	実施項目	担当組織	活動目標 (目指す姿)	2022 年度 活動計画	2022 年度 活動成果	2023 年度 活動計画	SDGs の該当項
2. 未来の社会に貢献できる先進的な技術と商品づくり <背景、課題、リスク> 日本市場の縮小 地政学的危機 バルブに精通し、正しく取り扱えるユーザー減少 次世代情報技術や先進技術の早期導入 5G 光通信 AI IoT DX カーボンニュートラル 水素技術	◇国際競争力を高め、信頼性の高いブランド力の強化	国内・国際規格開発	水栓部会	①国際標準：日本に有益な ISO PC316(節水規格)の規格発行により、給水栓分野の国際競争力の確保を達成している。 ②逆流防止に関する調査：世界各国の逆流防止の基準、法規、システムなどを調査し、調査報告書としてとりまとめる。これをもって、国内メーカの逆流防止に関する技術力向上と国内規制の強化に備えることが出来ている。	①関連団体と協力し ISO 31600(仮称：水効率ラベリングプログラム)の和訳化を進める ②EN 1717(給水設備における飲用水の汚染防止及び逆流防止装置に対する要求事項)の和訳の作成を完了する。EN 1717 と国内規格との比較及び差異の明確化と課題の抽出を行う	①標準化を担当する小委員会で ISO 31600 の和訳化を進め、規格全体の約半分程度の和訳を完了した。 ②EN 1717 の和訳の作成を完了し、EN と国内規定・実情との差異の明確化と課題の抽出を行った。	①ISO 31600 の和訳を完成させ、本規格に関連する会員企業に和訳データを共有する。 ②国内で実施されてきた逆流防止に関する議論を再整理のうえ EN 1717 との比較を行いつつ国内外の知見を深める。これをもって国内議論が再開された際に工業会として積極的に意見発信できる準備を完了する。また、調査の成果に関連する他団体とも共有する。	6.安全な水とトイレを世界中に
	◇ユーザーニーズに即した商品づくりや関連団体との協業	①会員企業が役立つガイドラインの策定 ②継続的な情報公開、セミナーによる啓発とコミュニケーション	バルブ部会	①業界団体としての活動を生かし、関連団体との定期的な意見交換会の仕組みができ、事業活動に生かしている。 ②バルブ設計や評価に役立つガイドラインが会員やユーザーに常に活用されている。 ③ユーザーにとって役立つ勉強会やセミナーが計画的に開催されている。	①バルブの予防保全に関するユーザー向け周知用冊子制作(建築用分科会) ②関連団体との意見交換の実施、交流の促進 ③JV3(バルブユーザガイド)改正、及び、JIS 改正素案作成の推進 ④部会員ニーズや共通課題の把握、的確な対策の実施	①23 年 1 月に建築設備用途ユーザー向けの web コンテンツを開設。最初の 1 か月の PV 数は全コンテンツ中 3 位 ②22 年 12 月に JV3 改正を公示。 ③JIS 5 規格の改正素案完成。外部委員を交えた原案作成委員会の審議開始	①ユーザー団体との対話イベント開催(建築用分科会) ②工業用途ユーザー向け動画コンテンツ制作を開始(工業用分科会) ③4 年ぶりの見学会開催を企画(部会、電力用分科会)	
	◇ものづくりの労働生産性向上 ・少子高齢化の流れの中、人手に頼らないものづくり	①IoT、AI を導入し、自動化・ロボット化・省人化・デジタル化を推進 ②研修メニューへの積極的な参加を促進	自動弁部会	①中小企業においても IoT、自動化などを行い、技術力・生産性の向上を推進させることを計画できる企業が増えている	①先端技術見学会、ショッップツアーの企画・主催	①22 年 7 月に会員企業(日邦バルブ：北海道工場)の見学会を実施。工場の省人化、5S の徹底などの知見を得ることができ、また、会員企業間の交流を深めた。 ②幹事企業の見直しを図り、幹事会を再開 ③ショッップツアーの再開、先端技術見学会の実施を検討	バルブにおける知識向上と、参加者同士の交流を深めるため、“ショッップツアー”の企画・主催	12.つくる責任、つかう責任

分野名	テーマ	実施項目	担当組織	活動目標 (目指す姿)	2022 年度 活動計画	2022 年度 活動成果	2023 年度 活動計画	SDGs の該当項
3. 社会全体の脅威・リスクに対応できるサプライチェーンとサステナビリティの強化 ＜背景、課題、リスク＞ 地球環境の変化（温暖化） 甚大災害、感染症の拡大 環境規制の強化 地球環境の変化（温暖化）	◇災害、感染リスクに対応できるレジリエント（強靱）な企業経営	①簡易版BCP とも称される事業継続力強化計画認定制度（中小企業強靱化法による経済産業大臣認定制度）などの周知 ②事業継続力強化計画の認定取得率向上	清流会	①会員企業の事業継続力強化計画認定制度などの認知率が向上している。 ②会員企業（サプライチェーン含む）の事業継続力強化計画の認定取得率が向上している。	①会員向けアンケートの回答内容を基に、認定制度または BCP に関するセミナーを開催する	（独法）中小企業基盤整備機構の協力のもと、事業継続力強化計画認定制度に関する会員向けセミナーを次のとおり実施した。 日時：23 年 2 月 22 日 名称：「事業継続力強化計画対策セミナー」 受講者数：19 社 22 名	①事業継続力強化計画から一步進めた BCP に関するセミナーの実施 ②メンバー間での連携事業継続力強化計画策定のシミュレーションの実施	11. 住み続けられるまちづくり
	◇環境負荷の少ないものづくり、環境意識の高い職場づくり ◇守りの環境規制対応から攻めの環境経営への移行	①環境配慮バルブ登録制度改良＆認知度向上 ②会員の環境対策実施の支援、環境人財の育成 ③環境規制に関する情報発信・情報収集の強化 ④環境活動調査継続による現状分析 ⑤バルブ製品アセスメントガイドラインの改訂	環境委員会	①環境配慮バルブ登録制度の登録社数が23年度末までに20社以上になっている（対20年度比2倍以上）。 ②工業会が、会員の環境目標設定とその達成の支援を行っている。 ③会員の環境への取組みを、工業会 web サイト等を通じて PR できている。 ④バルブに関する環境規制情報を会員に提供できている。	①カーボンニュートラル推進のための諸施策の検討（セミナー開催など）及び、工業会目標設定の検討 ②環境活動調査実施と「環境活動報告 2022」制作。 ③環境配慮バルブ登録制度の改善（登録製品リストリニューアル、会員向け利用マニュアル改定等）と登録社数増 ④環境メールマガジン、Web コンテンツ「環境 Q&A」の拡充	①22 年 6 月、通常総会出席者向けに「カーボンニュートラル推進セミナー」を開催。 ②22 年 9 月、環境配慮バルブ登録制度の利用マニュアルを改定。 ③22 年 12 月、「環境活動報告 2022」を発行。 ④23 年 1 月、web サイトに「環境配慮バルブ」登録製品紹介ページを開設。 ⑤web サイトの連載「環境関連情報」の更新とメールマガジン発行	①「環境配慮バルブ」登録社数及び製品数増 ②PFAS 規制強化ならびにその他環境規制への対応と情報発信 ③カーボンニュートラル推進のための諸施策の検討 ④環境活動調査実施と「環境活動報告 2023」制作。 ⑤web サイト連載記事とメールマガジンの拡充	7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう 12. つくる責任、つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を

分野名	テーマ	実施項目	担当組織	活動目標 (目指す姿)	2022 年度 活動計画	2022 年度 活動成果	2023 年度 活動計画	SDGs の該当項
4. バルブ産業の認知度向上 ＜背景、課題、リスク＞ 人財確保（獲得） 会員数の維持 素形材関連団体以外との業界連携	◇産官学の連携向上 ◇学生、中途の人財獲得	①企業紹介・データ提供を活発化し社会へ会員企業の姿をアピールする方法を行う ②安心安全・環境貢献・次世代育成を強化し会員企業が発展できる広報活動を行う ③従業員・学生の確保のため、魅力的なバルブ産業の認知度を向上・継続させるような広報活動を行う ④事務局で行っている発信ツール（ホームページや JVMA ネット）とも連携する	広報委員会	より広報活動を活発化させ、一般・会員企業のニーズに応えられる情報を、必要なときに必要な内容が発信できている、優秀な人財を会員企業が継続的に採用できている。	①バルブフォト五七五コンテストの企画・実施。 ②SNS を活用している委員各社の若手人財で構成される SNS 検討 WG を新設 ③行政との連携拡大を検討 ④「ばるちゃん」および「バルブの日」の活用方法の見直し	①第 12 回バルブフォト五七五コンテストを開催。9 団体から後援のほか、多くの会員企業・団体からの周知協力があり、応募数は 227 名、398 作品 ②“バルブの日”新聞特集企画を実施（会員企業からも広告掲載の協力があり、日刊工業新聞、日本経済新聞等、計 6 紙に掲載） ③広報ツールの見直しを行い、事務局発信ツールのメルマガ「JVMA ネット」のほか、SNS（Twitter、Instagram）の運用を開始	①今後のバルブフォト五七五コンテストの在り方や、応募素材の活用を検討 ②70 周年事業に向けたグッズ制作を検討 ③「ばるちゃん」および「バルブの日」の活用方法の見直し	
		技報テーマの拡大	バルブ技報編集委員会	バルブ技報の在り方を検討し、会員企業の幅広い層に届く情報が掲載できている。	①バルブ技報のテーマ策定と編集・発刊 ②編集委員会の目的・立ち位置の再確認 ③誌面の在り方を検討（技術誌としての内容以外に広報誌としての在り方を検討） ④省庁・大学関係者からの執筆を増やし、技術者に役立つ先端技術の掲載を検討 ⑤70 周年事業に向けてのコラム掲載を検討 （販売数を増やすための施策は、web サイト改善と連動させる）	①バルブ技報の編集・発刊 1) 第 89 号（22 年 9 月号／テーマ：「環境配慮への取組み」） 2) 第 90 号（23 年 3 月号／テーマ：「配管・バルブの保温保冷材」） ②22 年度～23 年度発刊号および 70 周年号にあたる 2024 年度発刊号の特集テーマ及び執筆依頼先の検討 ③関連業界を取り巻く知見を深めるため、関連団体紹介の報文を継続掲載 ④読者の検索性を高めるため、Web サイトの報文購入ページの改善検討	①バルブ技報のテーマ策定と編集・発刊 1) 第 91 号（23 年 9 月号） 2) 第 92 号（24 年 3 月号） ②70 周年事業に向けた掲載内容の検討 ③購読数を増やすための施策を検討・実施	